

文化・交流—新しい地域創造

ロゼ

文化情報誌 ロゼ

Art information of Fuji city **Vol.17**
AUTUMN
Culture Magazine ROSE 1996

秋号



vol. 17



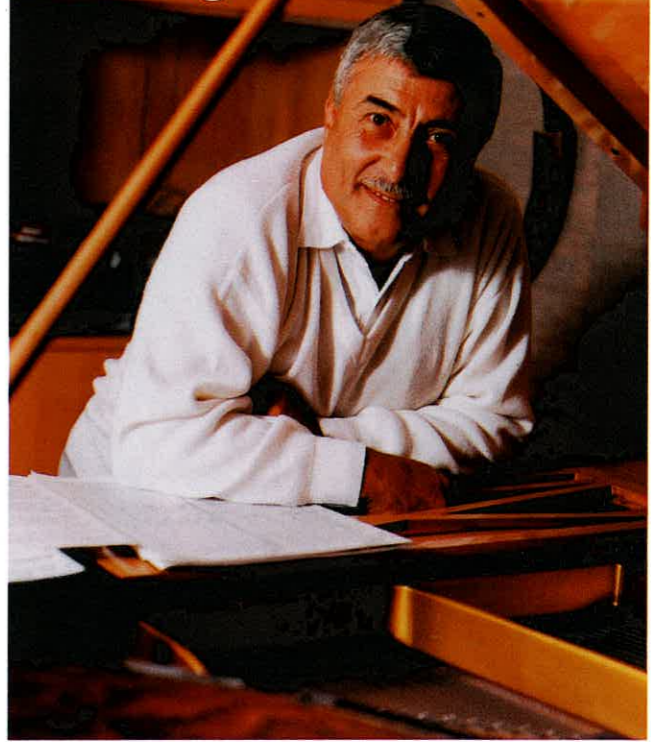
ロゼ

富士市文化情報誌 ロゼ 1996年10月発行 (第17号)
発行 (財)富士市文化振興財団 〒416 富士市蓼原1307番地の8 TEL (0545) 60-2510(代)
企画・編集・制作 (財)富士市文化振興財団事業課広報係 アドスペース エービック株式会社 アタゴオル

「華麗」「美と幻想」……待望の「大公演」接近!!

「きらめくストリングス……カラベリ」「世界最高のクラシックバレエ……キエロフ」。記念イベントの一環として、いよいよこの二つの公演がクライマックスとして登場してきました。音楽ファン、バレエファンにとって大きな魅力であるこの公演の、見どころ聴きどころをご案内いたします。

カラベリ・グランドオーケストラ CARAVELLI et son grand orchestre



ストリングスの美しさ
アレンジの妙を楽しむ

カラベリ・グランドオーケストラは、かつて「カラベリ」と銘打つたストリングス」という名で、一九六〇年〜七〇年代にかけてムード・イージー・リスニングのスターとして、世界はもとより日本でも大いに愛されました。名前にもあるとおり、当時から弦の美しさは極立っており、多くのファンはその甘美なムードに酔いしれたものです。イージー・リスニングの最大の魅力はアレンジ

にあるといえますが、アレンジヤーはオリジナル曲の特徴を活かし、いかに心地よいイージー・リスニング作品に仕立てあげるか工夫をこらします。カラベリのアレンジはいつもどこかに「オヤツ」と思わせる新しさが盛り込まれファンを魅了させています。音楽を聴く者にとって、同じ曲でもアレンジをいろいろな楽団で味わえるのは何とも楽しいものです。ムード音楽の先駆者マントヴァーニの「シャルメヌ」「魅惑の宵」などは弦の美しさに目を見張るものがありました。カラベリは

大先輩にあたるマントヴァーニ・オーケストラの影響を受けながら、アレンジに現代風な味付けをしたと語っています。

作曲面でも、ヒットをとばす
明るく華麗に、エキサイティング!!

一九七三年フランク・シナトラが引退状態にあった時、カムバック曲として作曲した「愛よもう一度」はポールアンカが作詞し、大ヒットしました。その後、FM東京の人気番組「ジエット・ストリーム」の放送二十回記念にエンディングテーマ「ロワールの星」を作曲、七五年にホンダの新車「プレリウド」のCMを作曲するなど日本での活躍が目立ちました。そして七七年には、弦中心の演奏にリズムセクションとブラスセクションを大胆に導入、フレッシュなサウンドを実現。カラベリ・グランドオーケストラとして大きく羽ばたいたのです。リズムに特徴があるポール・モーリア、重厚な大人の音楽と言われたレイモン・ルフェープル、その中でカラベリは明るく華麗なフレンチポップスをイメージカラーとして人気を得ました。すでに楽団結成四〇年になろうというカラベリですが、ベルギー放送交響楽団のメンバーが中心になっての構成は変わらず、ヴァイオリン群のクラ



シック演奏はクラシックオーケストラならではの見事なアンサンブルで一聴に値します。クラシックからムード音楽、フレンチポップスまで、楽しさあふれるステージ・エンタテイメント十一月十六日(土)はカラベリ・グランドオーケストラで秋の夜を満喫してください。

●新市施行30周年記念事業●
カラベリ・グランド・オーケストラ
1996-11-16(sat)
開場17:45・開演18:30
ロゼシアター大ホール

- 演奏プログラム(予定)
- 弦のファンタジー (ポップス)
 - 白い恋人たち (映画音楽)
 - シェルブールの雨傘 (映画音楽)
 - ピギン・ザ・ピギン (ミュージカル)
 - やさしく歌って (ポップス)
 - マック・ザ・ナイフ (映画音楽)
 - 愛の讃歌 (シャンソン)
 - インシャラー (シャンソン)
 - マイ・ウェイ (ポップス)
 - 黒い瞳のナタリー (ポップス)
 - ハンガリア舞曲第5番 (クラシック)
 - 剣の舞 (クラシック)
 - カルメン舞曲 (クラシック)
 - メモリー (ミュージカル)
 - タラのテーマ (映画音楽)
 - 雨に唄えば (映画音楽)
 - 禁じられた遊び (映画音楽)
 - 月の光 (クラシック)
 - ツイガヌのアリア (クラシック)
 - プレリウドとアレグロ (クラシック)
 - ムーラン・ルージュの歌 (シャンソン)
 - ～バラ色の人生 (シャンソンメドレー)
 - ～雪が降る (シャンソンメドレー)
 - ～枯葉 (シャンソンメドレー)
- 他 (演奏順)

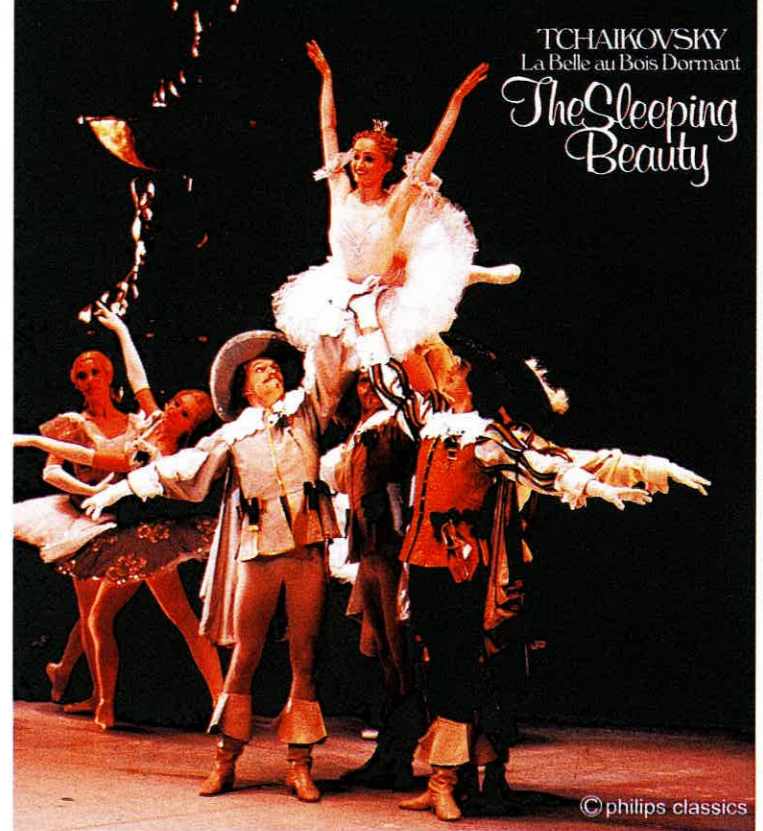
●新市施行30周年記念事業●
Kirov Ballet
眠れる森の美女
全3幕
1996-12-7(sat)
開場17:45・開演18:30
ロゼシアター大ホール

管弦楽：サンクトペテルブルグ マリンスキー劇場管弦楽団
芸術監督：オレグ・ヴィノグラトフ



ROSÉ 2

Kirov Ballet 眠れる森の美女



© philips classics

ROSÉ 1

ペロー、チャイコフスキ、プティパという天才芸術家達の組み合わせ
「眠れる森の美女」はロシア古典舞踊の頂点をなす作品です。チャイコフスキとプティパという二人の天才芸術家が創造したこの至高の芸術品は、バレエと交響楽が合体する端緒となり、バレエ芸術の発展において決定的な役割を果たしました。

このバレエのモチーフは遠く、一六九七年に発表されたシャルル・ペローの童話からとられています。当時フランスはルイ十四世が統括する強大な国家でした。文化や風俗が爛熟し、宮廷サロンでは魔法と幻想の妖精物語が流行した時代です。この時、宮廷作家として活躍していたペローは、民間に伝えられていた昔話を収集し、瀟灑な物語

集として宮廷人向けに出版しました。
一八八一年、ロシア・ペテルブルクの帝室マリンスキー劇場の支配人となったフェヴオロスキーは古代演劇を愛し、ルイ十四世時代の物語を舞台に再現するのが夢でした。八八年、贅と栄華を極めた宮廷文化を背景にしたクラッド・バレエを創作しようとペローの物語をモチーフに選り制作に着手しました。音楽にチャイコフスキ、振り付けには劇場のバレエマスター、プティパを選び、自ら台本を書き、精力的に制作を進めました。こうして三人の熱意が名作「眠れる森の美女」を誕生させたのです。

工劇のスタンダードがほとんど網羅されています。プロローグにおける妖精たちのヴァリエーション、第一幕のコール・ド・バレエによるワルツ、海の女神たちの踊り、フロリナ女王と青い鳥のデュエット、長靴をはいた猫と白猫の踊り、そして主役オーロラ姫を軸に展開される舞踊アンサンブルなどがそうです。
オーロラ姫の命名、成人、結婚をめぐる善の妖精リラと悪の妖精カラボスの対立と、百年の眠りに閉じこめられた姫を救出する王子の行動を描くストーリーは、音楽、舞踊、舞台効果の魅力と相まって百年以上にわたり、私たちに感動を与え続けています。夢が実現となる十二月七日(土)、ロゼの森にキエロフの舞姫たちが舞い降ります。ご期待ください。

ファンタスティックな美の世界
ロゼシアターの舞台で夢が現実となる
一八九〇年一月マリンスキー劇場で「眠れる森の美女」は初演され、観客からこの新しいバレエは熱狂的に迎えられました。上演回数を重ねる度にその評価は高まり、この作品が悠久の芸術的価値と不朽の美を秘めていることが明確となったのです。現在の「眠れる森の美女」は「古典バレエ百科全書」と呼ばれていますが、この中には偉大なバレエマスター、プティパが振り付けたバレ

若さあふれる5カ国6団体のステージ



▲シンガポールインディアンオーケストラ&合唱団



▲コロラド大学コロラドスプリングス・ユース・シンフォニー



▲アオテア・ユース・シンフォニー(ニュージーランド)



▲シンガポール国立大学シンフォニックバンド(NUS)



▲ベルモニック合唱団(チェコ共和国)



▲富士市高校選抜吹奏楽団

The Fuji International Youth Musicale '96

309名の若き国際音

9月5日～8日までの4日間にわたり開催された「富士青少年国際音楽祭」は、今年の財団オリジナル企画の一つであり、新市施行30周年・ロゼ開館3周年の記念行事でもあります。富士市高校選抜を含めた309名の若者で、ロゼを拠点として様々な行事に参加し、短期間でしたが富士市の素顔に新たな親しみを抱いた表情から音楽を通して生まれた「何か」が読みとれます。この行事が今後の国際化への促進と



▲9月8日(日) 合同コンサートリハーサルのコントラバスパート、ちょっと一息。



▲9月8日(日) 全員総出演の合同コンサートのリハーサル、真剣な面持の4人の指揮者。



▲合同コンサートリハーサル・管楽器パートで交流(NUSと男子高生)



▲合同コンサート開演前のひととき、丸山コロラド大学講師、女子高生にインタビュー。



▲合同コンサートリハーサルで友達レベルの演奏談義。



▲「I'm so excited!」と、NUS女性奏者。



▲合同コンサート本番、感動のグランドフィナーレ各団体の全指揮者ステージに上がる。



フィナーレを迎え、NUS指揮者と称え合う川崎優音楽監督。



▲合同コンサート(9月8日・ガラコンサートの最終プログラム)では全団員309名総出演による「威風堂々」を演奏、4人の指揮者が交互に指揮、客席と共に感動を分かち合う。

楽家達の音が富士に流れた日

ナル企画の一つであり、新市施行30周年・ロゼ開館3周年の記念行事でもあります。富士市高校選抜を含めた309名の若者で、ロゼを拠点として様々な行事に参加し、短期間でしたが富士市の素顔に新たな親しみを抱いた表情から音楽を通して生まれた「何か」が読みとれます。この行事が今後の国際化への促進と



▲9月5日(木) 来訪の各団体の代表のみなさん、富士市長表敬訪問。



▲9月4日(水) コロラド大学の学生さん「ハジメマシテ…」ホームステイ先の家族と、初対面の握手。



▲9月4日(水) 「ハア〜イ!!」コロラド大学のみなさん、ロゼ玄関に到着する。



9月5日(木) ▶ オープニングセレモニー、参加団体全員へ記念ロゴ入りTシャツプレゼント。



▲9月7日(土) ジョーダン君とクリスティーヌさん、日本食いかが? 森川さん宅の食事風景。



▲9月5日(木) 音楽祭開催を祝い、コロラド大学オファー教授からファンファーレ曲が贈呈され、披露された。演奏・NUS。



▲9月6日(金) 「ミナサンジュニア」NUS(シンガポール)のティーさん。



▲9月8日(日) 食欲モリモリ、レストラン苦心の献立にお困りも運んでもオイシイ、オイシイ。



生徒代表からNUSへ心のこもった「千羽鶴」贈呈。



▲9月8日(日) 出ました! 人気随一アオテアの踊り、母国のラグビーチーム、オールブラックスの踊りでも有名。



▲9月8日(日) 東の間の静寂、ロゼ4階の和室で御点前をたしなむ。



▲9月7日(土) さあ困った、突然の指令、アオテア(ニュージーランド)の家目っ気交流。



▲9月8日(日) ウィーン少年合唱団の再来か? ベルモニックの天使の声。澄んだ歌声は観客を魅了。



「私ニモ弾ケマス?」初めての琴に接して悪戦苦斗。



▲9月8日(日) 客席も国際色豊か、通訳付でインタビュー。ガラコンサートで。



アオテアの指揮者ハロップさんの指導でオケの指揮ができた!



9月8日(日) ▶ ベルモニックの少女たち、可憐な容姿は客席でも人気。



「ピアノ楽譜ミニクイナ」琴の譜面に真剣なまなざしを注ぐコロラド大学生。



「アリガトウゴザイマス」アオテアヒーロープレゼント交流。



ドキドキ
ワクワク

体験隊メンバー

山田研介くん (富士市三ツ沢 吉原北中学校3年生)
北中ではバレーボール部に所属し、今年は県大会出場を果たしました。
TRFからクラシックまで音楽は何でも聴きます。将来、警察官になりたいという、たのもし山田君です。

徳永祥子さん (富士市大淵 大淵中学校3年生)
小さい頃からピアノを習い、今は吹奏楽部のクラリネット奏者。あこがれの赤坂達三さんのようなアーティストを夢みる音楽大好き少女です。

夏休み:中学生・ロゼシアター1日スタッフ体験レポート

コンサートの裏方って何するの?

楽しい? 大変かな? ... 舞台裏を支える公演スタッフの仕事



開演間近。お客様を席へ案内するのも大切な仕事。ホールスタッフの方に教えてもらいながら、ちょっと緊張気味。



場内にわきあがる喝采のなか、徳永さんが出演者の上田さんに花束を渡すことになりました。客席から一層の拍手がおこります。



—ロゼイヴニングコンサート—
音楽の都をたずねて 第2夜「フランス」(8/2)



出演者とお話

リハーサルが終わって出演者とお話することができました。
上田晴子さんは、現在パリに在住、今注目されている国際的ピアニストです。「練習で辛いことはありませんか?」という徳永さんの問いに、上田さんは「毎日の練習で腱鞘炎にかなり手が動かなくなりましたが、プロとしての目標を持っていたので乗り切ることが出来ました」と貴重な体験談をお話してくださいました。
また司会の川崎優先生も二人に「音楽を奏でるのも聴くのも教養が必要で、世界の文化や歴史をたくさん知っていると音楽がより楽しくなる」とアドバイスしていただきました。

華やかなステージの舞台裏。満員のお客様に素晴らしい演奏で感動していただくため、そこにはたくさんの関係者とスタッフが働いています。

ふだん客席からしか見るののできない舞台。そこで今日は中学生の二人に「ロゼイヴニングコンサート」のスタッフを体験してもらいました。舞台の裏側でどんな出会いがあったか…皆様にその体験レポートをお届けします。



14:00 企画係
打ち合わせ

本日の公演について企画係の打ち合わせが行なわれます。各担当者から説明を受け公演スケジュールにそって確認がされます。舞台用語・業界用語など、初めて耳にする二人はとまどいぎみです。



15:00 ケータリング

楽屋に出演者の飲物などを用意します。「外人アーティストは飲むものが合わず、あわててコンビニへ買いに行くこともしばしば」と担当者の説明。パレエ公演とすると150人を超すから準備も大変です。



15:30 舞台セット

舞台のセッティング。舞台に音響反射板を設置しピアノをセット。椅子と譜面台を持ってきてステージが出来上がりました。このあとピアノの調律がおこなわれます。



18:00 ホールスタッフ
打ち合わせ

会場案内係の打ち合わせです。本日のお客様の傾向、車椅子席の有無、託児室利用者など、情報確認が行なわれます。お客様を気持ちよくお迎えし「素晴らしいコンサートだった」と満足して頂けるように、これがロゼのスタイルマジックです。



16:00 パンフレット
準備

舞台からホワイエロビーに移り、お客様に手渡すパンフレットの折り込みです。小ホールは330枚ですが大ホールの公演になると1600枚以上のパンフレットをはさみ込みます。(山田)「実際に体験してみないと解らないことがたくさんありますね。公演のプログラムも大切にとっておかなければならないと思いました」。



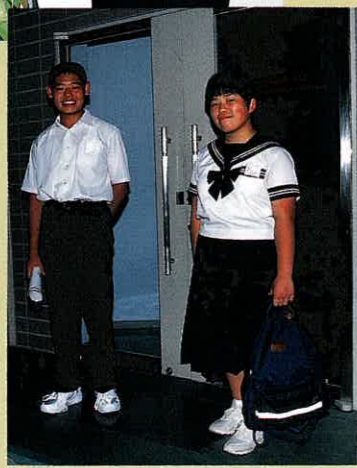
21:00 かたづけ

コンサートの余韻が残る会場。忘れ物・落とし物がないか見回ります。

—おつかれさまでした。ご感想は—

とても楽しい一日でした。初めもっと真剣な厳しい表情で仕事をしようと思っていましたが、スタッフの皆さんのアットホームな雰囲気には驚きました。ふだんなにげなく見ているステージもしっかりとした打ち合わせがあることを知りました。演奏が終わって拍手が聞こえた時、最高に嬉しかったです。学校に帰ったらブラバンの友達に自慢します。(山田研介)

ロゼシアターには何回も来ていますが、今日は初めて見るものばかりでした。ひとつのコンサートにこんなに大勢の人が携わっているんですね。上田晴子さんとお話することができて、とても感激しました。今日のことは一生の思い出になります。(徳永祥子)



ロゼシアターオープン以来、何回となく開催される財団自主公演、ともするとマンネリ化になりがちな我々スタッフですが、今回フレッシュな二人の中学生を迎えて我々も原点に帰った気がします。山田くん・徳永さん、お疲れさまでした。(ロゼ・スタッフ一同)



17:00 食事

準備の合間をみての夕食です。毎度のメニューはコンビニのお弁当。いつでもどこでもすぐ食べられるのがポイントです。楽しく食べたいのですが、すぐ次の仕事が始まってまよ。



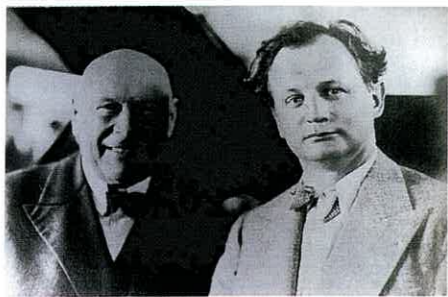
16:30 最終打ち合わせ

出演者・舞台・企画のホールスタッフによる最終打ち合わせです。時間の調整から音響・照明のタイミング、また演出の細かなきつかけまでお互いに確認します。このコンサートを最高のものにするために全員で雰囲気盛り上げます。本番まであと少し。



18:30 開場

開場時間です。「いらっしゃいませ」お客様のチケットをもちりパンフレットを手渡します。二人にとってお客様と接するのは初めての体験。いよいよ本ベルが鳴ります。



①日本国内演奏旅行中のユンカー(左)とケンプ。

ルメン」組曲、「アルルの女」組曲、シューベルトの「未完成交響曲」といった名曲を数多く本邦初演した。音楽を学ぶ者の大半が使う「コールユーブンゲン(合唱練習)」を使い始めたのもこの人である。直弟子には、三浦環、太田恒、山田耕筰、大和田愛羅、川上淳などがいる。

折感から「この野郎！」とイタリア語も解らないままローマに行っちゃたのですから、あの頃のエネルギーが大変なものでした。当時のローマのアカデミーは世界から彫刻家を目指す若者が集まって来ており、熱気がムンムンしていました。人生何がラッキーかわからないですね。

一九三四年(昭和九)に再び来日。武蔵野音楽学校、松竹交響管弦楽団



③アイールズ夫妻(夫人はエリザベットの娘で陶芸家、夫はチェンバロ奏者、同夫妻は昨年末フレッヒエン市より文化功労者名譽表彰の贈り物を受けた)。

マンドリン製作・演奏家
内藤 閑喜
Yasuyoshi Naitoh ● PROFILE
富士市出身、現在ドイツ・ケルン市在住
海外のさまざまな文化情報を新しい切り口で取材し、レポートを送っていただいています。

日本の管弦楽の発展に著しく貢献したユンカーの業績は、一般にはあまり知られていない。ユンカー指揮で東京音楽学校(東京芸大の前身)はベートーヴェンの交響曲第三番、ピアノ協奏曲第三番、ビゼーの「カ

一八七〇年明治三、ドイツのシユトルベルクに生まれる。一七歳でケルン音楽院を卒業後ヨアヒムに師事、ベルリンフィル、ケルン及びシカゴ交響楽団の首席奏者を歴任。ヨアヒムとの関係から晩年のブラームスとも親交があった。(1)

ドイツの専門誌「ムジック(音楽)」(一九三七年(昭和十二))にユンカーの談話が載っている。その序で、ピアノのケンプは「日本は伝統音楽を保存している一方、未知の音楽の響きを自分の中に取り入れるため非常に熱心に西洋音楽に耳を傾ける。この日本の特殊性がユンカーを引きつけた」と書いている。

ユンカーの業績を称える一方、厳しい批判もあった。「幸田女史に次いで傲慢不遜にして小癩に障るのは、御雇教師ユンケル(ユンカー)」。演奏に何百金を出せなどは幸田女史以上にして他人の出演を拒むも同様たり「などと「帝國文學」(一九〇七年《明治四十》)に書かれたりしている。明治の頃、森陽外やユンカーのような例は意外に多く、密度の濃い文化交流があった。その裏に特に自己主張の強いドイツ人と謙譲を美德と評する日本人との間で摩擦があったことは十分に考えられる。劣等感が鬱憤となり安全弁が吹き飛んだような露骨な感情表現となつている。この種のフラストレーションの解決なくして真の文化交流はあり得ないのは今日にも共通している。

(注) (1) ブラームスのヴァイオリン協奏曲はヨアヒムに捧げられている。
(2) 幸田露伴の妹。邦人で高度の洋楽を確実に身につけた最初の人と言われる。東京音楽学校の前身「音楽取調掛」第1回卒業生(1885年(明治18))。日本で最初の交響曲(ベートーヴェン第1番)と弦楽四重奏の演奏に加わっている。1889~1895年留学、ウィーン音楽学校卒業。

明治文化交流の一端 アウグスト・ユンカー

内藤 閑喜

特異なユンカーの経歴

僕らの風景を現在の空間へ喚起させたい

来る十一月九日(土)〜十二月一日(日)に開催する「御宿至彫刻展」展示を前にアトリエを訪ね、御宿さんにお話しを伺いました。

■彫刻との出会いについて

幼い頃から絵が好きでしたが中学二年の美術の教科書で見た「エミリオ・グレコ」の印象が強くなり、また高校の時上野で「マイオール」(ロダンの系統ですが)の作品を見て、関心が平面から次第に立体に移っていったのでしょね。その後東京に出て渋谷でグレコの作品を目の前にしたことが彫刻家をめざす直接のきっかけでした。

当時世界一流の彫刻家の多くがイタリアから出ていました。マリニー、マンズーを初めグレコ、クロチェツィー、ファツィーニ、マストロヤニーなどが彫刻の一時代を創りましたから。

夢中でイタリアに渡りローマのアカデミーで彼等と出会いました。世界的な彫刻家が一つの美術大学に四人もいたのですから今思えば信じられないほどのです。非常に貴重な体験をしました。

二十数年前芸大受験に失敗して挫



アトリエで制作中の御宿氏

江戸時代の尾形光琳の構図でも生け花や能にしても非常に抽象的ですよ。それにローマで谷崎潤一郎の「陰影礼賛」を読みました。日本人が空間をどう捉え、どう関わってき

たのかを書いた随筆ですが読んで感銘しました。日本人は抽象的要素を持つているのでしょうか。一般に抽象と言うと難しいと思ひ込みがちですが、そうした常識をはずしてしまっ



作品：風の記憶—砂漠にて

たら絶対何か感じるものがあるはずですよ。抽象的な作品の場合、その空間に関わった人々がそれぞれ自分の宇宙観、人生観をふくらまし、その感覚をより多く内包することが出来るのではないのでしょうか。

■これからの活動について

今イタリアでの活動がおもしろくなりはじめたところです。一昨年、中部イタリアの現代美術館に作品が収蔵されましたし、また四年前にローマの近代美術館で作品が展示されました。なにしろローマの国立近代美術館に僕の作品が展示されたことは二十数年前には考えられないことでしたから、嬉しかったですね。来年に予定されているニューヨークでのプロジェクトが楽しみです。(ローマのスパイオルト画廊と美術

評論家アンナ・コケッティの企画により十六人の作家が選出されている)

■今回の展示のテーマは

最近の展示では「風の記憶」とか「記憶の風景」とか題名があります。僕の形態は幼い頃からいままで見たり感じたりした記憶に残っているもの(原風景)を喚起し、現在の空間で皆さんと共感できればと考えています。今回、僕にとつての「精神的な場としての空間」を創り出したいですね。

作品の一つに、二年前十五日間掛けてロシアの国境からパキスタンの国境まで、シルクロードの北を通り天山を越え砂漠までの未開放地区を旅したスケッチを題材にしたものがあります。その時の風景が今でも生きていますね。

他の作品も僕が小学校三年まで富士山の麓に居たことや日本での生活、イタリアに住んでいたことでの関わりが出ています。

自然の風景の記憶を大地が生んだ、鉄を素材に形を作り、現在の空間の中で呼吸させる。やがてサビはじめ風化しながら記憶とともに自然の大地に帰ってゆく。そんな僕の世界を感じて頂ければ幸いです。



彫刻家 御宿 至 Itaru Mishiku ● PROFILE

- 1949 静岡県富士宮市に生まれる
- 1974 イタリアに渡りローマに在住
- 1977 イタリア国立美術アカデミー彫刻科(エミリオ・グレコ教室)卒業
- 1982-3 「日本・イタリア新世代展」イタリア国立近代美術館(ローマ)
- 1994 「フェスティバルふたつの世界」スポレート現代美術館(スポレート)公共スペース
- 1990 「対話」イタリアマリーノ市(マリーノ)
- 1994 「無題」スポレート現代美術館収蔵(スポレート)
- 1994 「記憶の風景」アクトシティ(浜松)
- 1995 「風の扉」徳間書房本社ビル(東京) 他

1996 11 NOVEMBER

Table with 4 columns: 日, 曜日, ホール, イベント. Lists various events from November 1st to 30th.

1996 12 DECEMBER

Table with 4 columns: 日, 曜日, ホール, イベント. Lists various events from December 1st to 25th.

1997 1 JANUARY

Table with 4 columns: 日, 曜日, ホール, イベント. Lists various events from January 11th to 29th.

はロゼシアター主催事業
★印は、ロゼ・チケットセンター窓口でもチケットを取扱う予定のものです。

▼イベント見どころガイド▼

こまつ座公演 雨
作/井上ひさし 演出/木村光一
12月13日(金) 中ホール
●開場 18:00 ●開演 18:30
●入場料/S席: 4,000円 (全席指定) A席: 3,000円

97新春クラシックコンサート
新日本フィルハーモニー交響楽団
1月29日(水) 大ホール 指揮: 小林研一郎
チケット発売10月25日(金) ピアノ: 園田高弘

97新春クラシックコンサート
新日本フィルハーモニー交響楽団
1月29日(水) 大ホール 指揮: 小林研一郎
チケット発売10月25日(金) ピアノ: 園田高弘

展示室のご案内

Table with 3 columns: 展示期間, 展示室, 催事. Lists exhibition events from November to January.

*一般貸館事業については、平成8年9月中旬までの受付分です。各ホールでのイベントや展示などの日程は変更になる場合があります。また、主催者の都合により一部記載されない催し物もあります。ご了承ください。

舞台利用者の基礎知識講座



オープン三周年を迎えようとして、ロゼシアター。この間にはたくさんの皆さんがロゼシアターを利用し、活動されています。

三年間の経過の中で、活動されている市民の皆さんからアンケートをいただいたところ、新しい舞台設備や施設に対する知識が充分でないため、いまひとつ利用後の満足感が得られなかったという意見が出ていました。

うと、八月二十七日に大ホールで舞台利用者の基礎知識講座をおこないました。講師は財団の舞台係です。

後半、実際に舞台上がり様々な照明器具や音響機器を目の前にし、手にとったり操作したり、また矢継ぎ早の質問など、その対応にスタッフもてんてこまいの有様。帰り際には「次回の講座を楽しみにしています」という利用者の声も聞かれました。

富士青少年国際音楽祭

熱くなった4日間
~特集(本誌4.5P)では伝えきれない若者たちの熱い思い。参加した高校生のおしゃべりに聞き耳をたててみました~



「あー、やっと終わったって感じ。でも、すごく充実してたね」
「この音楽祭に参加できてホント良かった。まだ、私たち十七歳なのにこんな貴重な体験させてもらって...」

「感動! 食事のときに、勇気出して一緒に写真撮っておいて良かった。一生の宝物になる」
「最終日、参加団体全員でのジョイントコンサート(威風堂々)は、

「それまでに英語勉強しておこう」と。
「ホントにいい思い出になった。また、いつかどこかで逢えるといいな」

トキメキ WAKU WAKU 通り

「そうだよ。最初、オープニングコンサートで演奏したとき、会場のノリが全然違うのにはビックリ!」
「これは絶対日本人にはできないよね。演奏しててすごく楽しかった」



シリーズ話題のPROFILE② 声楽家 市村ひろみさんを訪ねて

これまでロゼのステージでお馴染みの市村ひろみさん。来年一月二十六日のリサイタルに向けての抱負を伺いました。



チケットのお申し込み・お問い合わせは
ロゼ・チケットセンター
0545-60-2500 受付時間 9:00~19:00

プレイガイド
■ラ・ホール富士 (0545) 53-4300
■ユニバーサービスカウンター
■ラ・ホール富士 (0545) 51-9027(代)
■チケットセンター (0559) 61-2405
■吉原店 (0544) 24-0255(代)
■カワセ書店 (0545) 71-9592
■カワセ書店 (0545) 52-1586
■カワセ書店 (0544) 24-7160
■カワセ書店 (0545) 51-5227